

114
A 4154
3

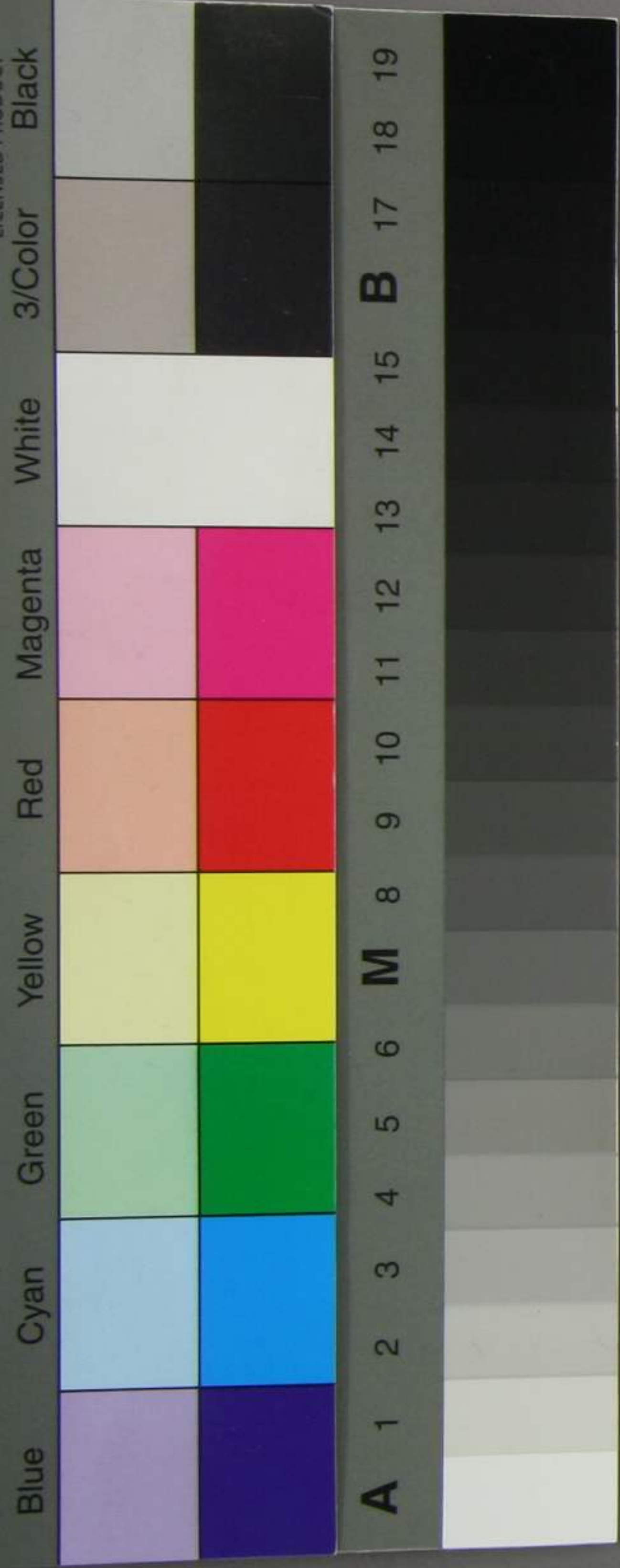
横濱奇談

壬申三月十日安藤劉太郎ヨリ来

天正十一年四月
限侯爵寄贈



一日横濱ヨリ一書生来リ話メ云ク僕等在港殆
ノ教師ハ常ニ田夫野郎ノミニ親近スルユヘ彼
カ人ト為リ極テ俚シ然レトモ波羅暗ニ至ラハ
多ク中人已上ラ目的トシテ誘引スレハ教師亦
自ラ君子ノ風アリ而シテ此頃港下ニ一奇事アリ
僕等頗ル愕然タリ始テ波羅暗徒ノ真面目ヲ知
ルコトヲ得ル奇事トハ何ソ曰ク



加列金澤縣下某村ノ貧民忠ハナル者十余年
前妻子ヲ携ヘ横濱ヘ轉住シ日ニ傭作ノ以テ
生計トナセリ而シテ凡ソ三年前ヨリ教師トシテ
ノ家ニエ役シ致々怠ラス勤テ教師ニ仕ヘリ
教師亦深ク之ヲ憐ミ遂ニ三月頃ヨリ其館内
ノ一空地ヲ貸メ自ラ居宅ヲ造ラ令メリ而シテ
稅ヲ取ラス此ニ於テ尚空地アリ或日忠ハ教
師ニ乞テ曰奴輩ニ若干ノ余金アリ願クハ主
ノ閑地ヘ一小借店ヲ築キ以テ市人ニ貸スコ
トヲ得セ令メハ幸ヒ甚シ教師速ニ諾セリ遂

ニ七十金ヲ出シ一店ヲ造リ以テ結髮者藤吉
ナル者ヲシテ居ラ令ム即チ敷金二十両屋賃
一兩ニ歩ナリ而シテ彼カ業日ニ繁榮シ殆ト市
中ノ結髮者ヲ壓スル勢アリ依テ同職ノ為メ
ニ異館ノ故ヲ以テ遂ニ其業ヲ禁セラルル此ニ
於テ藤吉甚ク因却ノ忠ハト謀リ俟ニ此事ヲ
教師ニ訟フ教師曰汝等若シ名分ヲ改メ我カ
家僕トナラズ其難アルヘカラス縦ヒ難アル
トモ唯我ニ謝スヘシ汝等ニ在テ更ニ愁ナシ
依テ忠藤二人試ニ證書ヲ作り假ニ主僕ノ約

ヲナス藤吉又曰凡ソ西洋ノ國習ハ毎七日ニ
安息日ト稱シ各業休息セリ然ルニ奴輩ハ素
ト貧業ニメ彼國習ヲ守リ難シ願リハ主之ヲ
恕セヨ教師亦敢テ否セス再後藤吉再々復業
スルコトヲ得テ安然生活セリ或ル日安息日ニ
教師彼カ店頭ヲ過キ笑詔雜蕩ノ声ヲ聞キ憤
怒ニ堪ヘス忽々突入メ毀罵打蹴頗ル暴行ヲ
恣ニス依テ藤吉等其他一座ノ客ニテ驚愕メ
奔出セリ教師再々忠ハノ宅ニ隔入シ其狂暴亦
此ノ如シ忠ハ亦逃ル而メ教師飯宅メ自若ク

リ之ニ依テ忠藤二人深ク愁トナシ遂ニ此ヲ
教師バテニ愁告スバテ快ク諾シ忽チ一書ヲ
投シ痛クゴダシテ諫ムゴダシテ此書ヲ見テ怒ルコ
ト甚シ遂ニ西教師隔然絶交メ互ニ仇視スル
ニ至ル後チ彼國教會ノ徒此事ヲ聞テ深ク日
本へ對シ波羅暗ノ敢取トナランコトヲ恐レ
彼等ヲシテ和セ令ンコトヲ謀ル然レトモ彼
等強ク私情ヲ張リ容易ニ屈スルコト能ハス
教師亦退リ然ルニ彼忠藤二人ノ奴輩ハ家宅
ヲ失ヒ各其業ニ就リコトヲ得ス甚ク困却シ

日夜バフニ泣迫ス依テバラ竊ニ金三十圓ヲ
彼奴輩ニ與フ奴輩亦バフノ恩賜ヲ喜ビ或ハ
道路ニ於テ公然バフヲ褻揚シ痛クゴッセルヲ
敗スゴッセル此ニ於テ切齒ニ堪ヘス遂ニ十月
中旬一書ヲ作りバフノ舊惡教條ヲ擧テ彼國
ノマニシユル館へ諷ス其後教師等日ニ彼館へ召
出レ糺明責問殆ト十度後チ同月廿九日裁決
ノ日ニ至テ憐ムヘシバフハ二百弗ノ罰金ヲ
奪レタリ而メゴッセルハ頗ル狡猾ナル哉其二
百弗ヲ船賃トシテ十一月十二日出帆歐國也

リ
耶穌曰若撒但逐撒但是自相分争也其國何以立
哉彼教師等ハヨリ魔鬼ノ撒但トナリ巧ニ日本
人ヲ誑惑ス然レトモ彼等互ニ誑惑スルコト能
ハサル歟將又彼輩奸黠ノ錐其囊ヲ脱スル歟此
等ノ一近事ハ即チ彼徒ノ真面目ニシテ所謂ル
撒但互ニ分争スルモノナリ其教何以立哉

大正十一年四月
隈候爵邸寄贈



夫四事情書に奉報告

一 夫二日曜日に來彼宗公會之日、蓋に情書を味
存せ一日に之を并に小川宗欠席に御會内之宗統
に據りて其を自來會上に托テ突然之六十六卷の函約
書に即ち神の靈言ト云ト是モ可なり又不可なり
外モアリ一概スレカラス可なり信自スレ不可なり據
亦可なり第一耶穌復生に説、我宗雅信の也、
我足下坪に在りて諒紛紛に是に道、我雅絶れし

故公會社 右戸波抄五舟 教旨集録に上右示
件長老職掌と云々小川分宿 佐藤三郎子
至道事ト一波抄ト 佐藤教雄并彼
波五人 高宮文流 佐藤元来 強信 純ト
小川岸ニ云信右極會ト 右件突化 舟小川ニ余
程逆舞ニ軒ト 右示ニ事件公會分年
系回ニ云云ノ 厥ニ近來ニ 愉快ト 病ニ 祈念應
ト事ト云々

一 津園縣内 津學校 壬午年 末 無國 嘉那ノリ
在當ニ公就學校内ト 托ラ生徒ニ 分見ト 佐習院
ノ近來ニ 歲多ニ 信右徒ニ 出来抄 得安日
葉邊ニ 系傳示ト 勿誤 右學校ト 嘉振抄 中村
敬ニ 官轄抄 舟交口人ニ 高下事 且事 外 臣某
ニ 建公ノ 認 若事 余程 彼 爲 爲 夫カ 抄 中
ト事

右二條 具 問 傳 示 不 敢 多 報 可 頓 首 謹 言

二月十三日

横濱
安友到



小池 詳敬 株
小栗 定憲 一 株

手車

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

去十三日事情書に末奉申上

一 此亦吉日曜日午後五時三十九分會社に於て

杉山 探六 群馬縣

熊野 雄七 元大村縣

藤江 正吉 西川後
備前

湯淺 久兵衛 尚港幸所住

橋本 鑑 美濃
美濃

伊東 友賢 仙臺縣

右六名貴族ハラカテ之ニ交託シル但ニ澁水之命

ホシ式ニ由リ之ニ交託日稱ニ事ニ由リ然ルニ事案
之稱ニ不慮ニ故ニ由日也勿謂至末ニ安寧ニ勢

右に受法し、右に比して、入邪に人教を右に標増加
此の法を想ひ、彼に右に改法して、人集上にて、右に
蕭寂に標注視せ、右に高より、其所の辨、右に
系来彼案、此を日、蔓延に勢、右に追、右に宗則、
酷に加、右に愚意、奉建言、右に、上は彼案、
後、右に法理、右に、時、蔑視、右に、人、右に、
此、右に、右に、右に、右に、右に、右に、右に、
右に、右に、右に、右に、右に、右に、右に、
右に、右に、右に、右に、右に、右に、右に、

右に、右に、右に、右に、右に、右に、右に、
御方、向、右に、右に、右に、右に、右に、
一、右に、右に、右に、右に、右に、右に、
出、右に、右に、右に、右に、右に、右に、

右に、右に、右に、右に、右に、右に、右に、
後、右に、右に、右に、右に、右に、右に、

三月九日

横濱
新名屋到方收



壬申二月十五日

天啓侯郵寄贈

小池

横濱 丑至 刻下

凡ソ切支丹ノ教法ハ專ラ天主造物ノ恩ヲ主張
耶蘇贖罪ノ功ニ信任スルヲ其教ノ準標トスレハ
其徒タル者ハ自ラ君父ニ奉事スルヲ許サス然
レ凡此教ノ
皇國ニ浸入ノ日久カラサルヤ教師輩邦人ヲ誘
惑ノ為メ五倫撮要五帝撮要等ノ書ヲ著シ巧
ニ其説ヲ偽飾ス然ルニ近末當港ヲ首トシ諸國

港地ニ此教蔓延ノ勢ヲ察シ漸ク彼カ真面目
ヲ露シ既ニ此度設ケタル教會規則ニ左ノ三條
ヲ加フヘキノ説アリ然レバ會外ノ責ヲ怖ルモ
アリ遂ニ其論一定セズ併シ入宗ノ徒ハ永ク心ニ
誓テ此等ノ條ヲ固守スヘキハ勿論ノ宗規ト教師
ニ常ニ諭スル外ナリ三條トハ何ソ

第一條曰皇祖土神ノ廟前ニ拜跪スヘカラサル
事即チ舊約全書出埃及記二十章我之外

再母別有神再母爲己雕刻偶像或作諸行狀
彷彿在上天下地與地下之水中所有者再母
俯伏向之亦母服事之蓋我耶和華再母之神乃
嫉妒之神討父之罪及其子孫至惡我者之三
四代等ノ文ニ拠ル

第二條曰王命ト雖モ道ノ爲ニハ屈從スヘカラサル
事即チ新約全書使徒行傳四章聽再曹愈
於聽神在神前義子再自審焉同五章聽神

愈於聽人宜也等ノ文ニ拠ル

弟三條曰父母血肉ノ恩ニ愛着スヘカラガル事
即チ同馬太傳十二章何者為我母何者為我兄
弟子同約翰傳二章耶穌對母曰婦欺我於再
何與等ノ文ヲ以テ證ス

已上ノ三條ハ彼カ最モ急トスル外ニ能ク宗徒信
教ノ厚薄ヲ審判スルノ權衡トス別ノ近未教會
ノ徒日ニ會堂ニ集リ祈禱スルニ公然此三條ヲ唱ル

モノアリ曰ク

天ニ在ス真ノ神我等ノ父我等今日迫飢寒
ノ患ナリ又火盜ノ難ナク一身安全ヲ得ルコト独
リ真神天父ノ余恵ト難有存シマス我等素ヨ
リ耶穌教會ノ徒弟ナレハ真神救主ノ外凡ソ
天地間ニアル神祕父祖等ノ偶像ニ從事スルノ
心ナク專ラ一意ニ志ニ救主耶穌ヲ尊信イタシ
度存シマス然ルニ此日本未タ惡魔ノ域ヲ免レ

ス政府ノ人々真ノ智ヲ得ルモノ少シ時トシテハ
自由ノ權ヲ以テ此道ヲ妨ケス苛酷ニ敵徒ヲ逆
遇スル輩皆惡魔撒但ノ黨ナレハ頼クハ聖靈
ノ劍ヲ以テ此等ノ惡魔ヲ剪除シ給ヘ又我等不
幸ニシテ其惡魔ノ手ニ陷ルコトアリモ怯劣ノ
心オコラサルヨウ昂テ十二使徒ノ彼得保羅カ
聖靈ノ感化ニヨリテ政府主長ニ對シ強頸不屈
ナル如ク我等ニモ亦剛強ヲ興ヘンコトヲ希フ我

等唯天父ノ子トナリ天國ニ入ラシコトヲ頼フ血肉父
母ノ子タルコトヲ欲セス嗚呼三位一體ノ神様知ラサ
ルモノナク又能ハサルコトナシ我等今祈ルル耶穌救
主ノ名ニヨリテ偽ニ聽玉ハンコトヲ希フ亞孟

此等祈禱ハ既ニ彼敵ニ心醉シ其身

皇國ノ民ニシテ其本心却テ彼ニ左祖シ乍恐

朝廷へ倒戈スルノ惡言最モ睨視スヘキモノニアラスヤ
果シ此敵法闔國ニ蔓延セハ堂々タル

皇道立トコロニ漬レ千有余年固有ノ

御國躰モ何所ニ立セラルヘキ耶将又邦人奉テ彼ヲ信

セハ将来ノ御國難果ノ不可測且ツ不可救ヲ勢ニ

至ルヘキ歟ト臣等杞憂スル外蓋シ此ニ在リ但シ方

今文明宇内ニ盈テ維新天下ニ溢レ技術器械迄凡

ソ國家ニ益アルノ美事良材ハ博ク海外ニ問ハセラレ

如此公明正大ノ御佳節ニ當テ独リ敷法ノ一事ノミ

嚴乎トシテ禁止シ給フ御高札ノ御主意蓋シ

此ニ在リト雖モ近頃出格ノ仁典ヲ以テ此等ノ徒ヲ

寛宥シ給ヒ一指ノ御取分ナキハ御交際ノ大義ヲ

重シ給ヒシ

朝旨ニ出ル事ト竊ニ恐察シ奉ル外ナリ然レモ彼徒

此等ノ

聖恩ニ甘シ却テ

朝威ヲ輕蔑シ奉リ公然彼輩ニ從事スル等ノ舉動

臣等日ニ目撃シ切當ニ難堪事ニ御座候仰徹臣

義ハ今ヨリ凡ソ十年前洋教ノ潛入ニ注目スル処アリ
ヲ竊ニ慷慨セリ後々明治元辰秋 御一新ノ際ニ
當テ真宗五派一致憤發ノ肥前浦上村ノ異宗徒説
諭ノ一舉蒙

官命度旨出願スルノ機會ニ 微臣 義東本願寺ノ

内命ニ依リ殊ニ

官許ヲ得テ辨事傳達所ヨリ 御印鑑ヲ賜リ寄
陽ニ赴キ耶敷教師エムソールニ從テ彼カ情実ノ一端

ヲ搜索シ翌明治二己秋故マリテ大阪へ引移リ洋
學校へ入學教師ベキロニ從フ然ルニ彼地ハ人氣頗ル
頑固ニシテ開化ノ道モ進歩シ難ク隨テ洋教信徒ノ
土民モ甚ク寂寥ニシテ 臣等長ク潛居スルニ益ナキヲ察
シ一昨明治三己秋當港へ来リ再後々元彈正臺渡邊
大忠殿ノ内命ニ依リテ美國ノ教師ブロンゴールへボン
バラ英國ノ教師ベマリシ此他々教師キダプロエン等へ
出沒シ搜索ノ事情一々言上セシナリ而昨年七月

御廢臺ニ付キ臣等ノ進退

太政官へ御引渡ノ後一層奮發シ既ニ先達テ不
本意蒙

御内許教師バラヨリ受洗イタシ再永晚餐祢禱等
惣ノ彼カ宗式ニ任セ一身正ニ死地ニ入り日夜彼輩ニ
親灸罷在ルコトニ御座候而ノ彼輩ノ拳動ハ追々
事情書ヲ以テ報告シ奉ル如ク別ノ近永彼徒腹
心ノ慘毒ハ前件ノ三條ヲ以テ諒察シ給ニ事ヲ希

フ凡ソ敷法ハ人心ノ方向ヲ決スル基本ニシテ一日モ忽
諸スヘカラス 御維新已来星霜ヲ経ル既ニ五年
國家ノ政典大小事件凡遺漏ナリ日ニ確定シ給フ
純中敷法ノ一事ノニ新典未タ上下ニ洽決セサルニ
付キ頑愚ノ下民神佛判然ノ令ヲ聽テハ排佛ノ
朝旨ト愕キ或ハ教師罷退ノ事ヲ望テハ洋宗
官許ヲ疑ヒ物議多端道路ノ浮説紛紜タリ愚民
何ノ法ヲ信ノ其本心ノ方向ヲ決セン哉狐疑困惑ス

ルフトナリ其虚ニ乘シ彼洋外異端ノ教邦内ニ潛入
シ遂ニ今日ノ形勢ニ至レリ嗚呼歎息スヘキ事ニ御座
候當時^臣等ノ同志東京ニハ豊田道再當港ニハ
正木護大阪ニハ伊澤道一寄陽ニハ石丸八郎山村
三郎等聊カ憂國ノ赤心ヨリ

御内命ヲ奉戴シ千苦萬辛俱ニ死地ニ入テ彼カ舉
動ヲ注視シ日ニ盡カスル処ナリ然レモ右ハ畢竟枝
末ノ防邪ニテ根本防邪ノ庶議確定セザレハ枝末

ニ在テ何程盡カスルモ何所ニ実効ノ顯ルヘキ耶併
シ牒者ハ千里ノ外ヨリ彼カ情実ヲ奉告スルノ傳信
機械ナレハ牒者ナクシハ廟堂ノ君子何ヲ以テ防邪
ノ方向ヲ立テ給ハン竊ニ聞ク近來三道一致ノ御主意
ヲ以テ專ラ宣教ヲ更張在ラセラルヘキ條^臣等深ク
感戴シ奉ル処ナリ乍去防邪ノ綱規弛廢ニ至ルトキ
ハ自然宣教ノ大舉ヲ妨クヘシ此ニ於テ規律ヲ嚴ニ
シテ外ヲ制セラレ而シ具内ヲ守ルニ宣教ヲ更張

シ給ハ、異端何ヲ以テ潜入セン
皇道何ヲ以テ光被セサラン方今當港内入邪ノ徒別
紙ノ如ク日ニ其勢ヲ増スト雖モ純粹強信ノ徒ハ五
六輩ニ過キス余ハ皆時勢ニ乘スル烏合ノ徒ナリ
已上内外ノ制度御定立ノ上ハ彼徒一朝ニシテ土崩
スヘリ奉存候前件呈露スル外_臣等多年彼ノ欺
中ニ在テ日夜親炙目撃スル外_臣黙止スルヲ得ス憂
國ノ微衷ヨリ威嚴ヲ冒瀆シ敢テ妄議ヲ献ス此

旨幸ニ諒察シ給ハンコトヲ希フ誠惶頓首

明治五申三月

横濱在留

安藤劉太郎定正

安

公會定規

第一愬規

一 聖書由神靈之默示故可信可行之為標準也

第二可信度

一 信真神聖父造成天地

一 信其獨子耶穌基督我等之主

一 信其因聖靈之能降孕生於馬利亞之身

一 信其受難被釘十字架而死乃葬

一 信其往陰府第三日自死者中復活

一 信其升天坐於真神聖父全能者之右

持此其系則於

- 一信其日後從彼而未審判生死者
 - 一信聖靈
 - 一信聖公會又諸聖相通
 - 一信罪之赦肉身之復活永生
- 第三可行事
- 一不拜偶像而可拜惟一真神
 - 一其他守安息日愛神愛人
 - 一凡十誡之條々終身恒可守可行
 - 一受洗禮又可守聖餐
 - 一為死者不求於神為生者可求於神

會中例則

- 一凡欲加會者須知所以有教會之意諸兄弟回主之名而集成為一躰欲蒙救主之恩助也
- 一為主于教會者我等救主耶穌基督也
- 一長老之職在自慎而導人作事從聖經所說不可以私意徇是非他人
- 一長老之任二年而改選
- 一其他執事等之職姑長老兼司之
- 一我等以心共行事聖父聖子而同心和睦長老之言凌不可有異背

一凡事會中議既定而後人々可從之而行不行面從而背議

一聖書中疑事未審者猥不可說外人蓋恐欲導人而反使人疑也故先可就教師而質之或當於教會論之

一會中兄弟疾病相恤患難相救不可踈而侮之惟應祐弱者共進道

一有事行他國者可以其行語長老若欲久留其國者以其情語長老不可絕音書

一至他國教會立欲加之者宜以其情語長老得而

後加之

一欲加會者先以其情語長老得會中定規之意而後可加入焉

一若有言行不從教而不聽諸兄弟之忠告不從長老之訓導者宜會中衆議而後以長老之皮處置之

一今姑任自便於每月首安息日各當托執事而為

調濟

已上

明治五年申三月

横濱教會

右第一條之大概 揭示此ノ事ノ見方ニ此ノ
一曰 教員長元ノ他 常員再選ノ上 増減ノ
ノ條ニ 教員長ノ 打中在リニ 系中ノ 令場加メ
ノ事也

一 聖書ノ 往來 秋或ハ四季ニ 之返出 會所
互ニ 准中ノ 三分ノ一 後ニ 隨ニ 委員會規則

公設ノ事

一 長元 在若ク 亦如 教員ノ 言ハ 在

會中家譜之選、三撰出書

一、家譜より共三準右件事

於又家言規則、取收方十四條、期滿上、惣シテ旨
中、徒各三年間、金六兩、由シテ、我輩、為シテ、金、年
下、金、並シテ、養目、由シテ、新、再、徒、規則、之、日、確
定、上、一、身、年、止、右、一、徒、之、事、情、之、不、放、事、報
告、頓、旨、謹、之

三月十三日

横濱
安政劉方



耶穌教關係之徒

栗津桂次郎 元膳所縣 受洗人

鈴木貞一 彦根縣 受洗人

鈴木輝次郎 宮津縣 受洗人

小川泰之助 京都府同府 受洗人

竹尾録平 靜岡縣 受洗人

深田寄桂三郎 日 受洗人

押山古翁 松山縣 受洗人

吉田信海 松山縣 受洗人

進部漸 日 受洗人

佐藤一雄 津縣 受洗人

戸波捨平 日 受洗人

下坪庄三郎 京都府同府 受洗人

法島屋之吉 横濱本町住

若田屋嘉作 日常盤町住

杉山郡六 律園縣

熊野郡 大村縣

諸山郡

相模屋大藏 板垣大田所位

室加省二 福井縣

幸田郡 津輕縣

右在近系頗ル高取之徒、申有、余在、此搜索上
二奉年報方止

石田郡 信濃縣

鈴木秀之助 板垣土部位

杉木郡 高取中妻牙

西尾郡 高取中妻牙

伊波郡 信濃縣

以上上總國水更津縣管内洋宗國禁

御高札有三搜索二段系 即内意并幸字俄

以每撥常則テ若九日若所ハ方若所ハ平ハ并

小川産之物又妻口迄出五步搜索、事傳九

ハ申ハ、ハ申ハ方止

一日縣之主村ナ、ハ至其地、傳、前、妻見ハ、右

御高札、有、ハ不、妻、ハ不、一、走、事、ハ、申、見、方

水更津縣

六手村

三少村

草牛村

牛袋野村

神野驛

右一縣四村一驛

即一新尾東一般、即江

正相成、見々ニテ降

即高札

お掲ヶ在り分

内裏鞍村

尾車村

大久保村

右三村、善幕府時代、お掲り多、見々一ヶ降

一切互丹和宗

即高札お掲ヶ在り分

但し右二権共一般、年號、慶應四年と云化

在り下廳驛、新、張紙、ハ、木更津縣下相

改、在り、事、有、在り

元橋井縣

曾根村

井尻村

永井作村

右一縣三村、洋宗國禁

即高札惣、在り

分

但、水更津縣内正三村、戸長十日市場村、佐

久間常日曰、高冬合縣三月十七日、梅井縣、水更津縣、合併ス

正三、梅井縣、切支丹、三、國禁、

御高札、三、除、糸、御達、三、并、拙若、配下、正三、村

長坂質 中里 江川 葛間新田

葛間 百石 高柳 永井作

祇園 菅生 牛尾 十日市場

井尻 坂市場 牛袋 牛袋野

中島村拓拓 牛袋野 牛止村拓拓 牛袋野 大寺 曾根

山倉新田寺

三、手、一、附、為、天、除、ト、三、然、右、正三、村、内、牛

袋野村、三、手、如、家、父、少、親、身、見、ト、現、ニ、

惟、御高札、岩、佐、お、掲、ケ、テ、り、口、人、之、從、親

諸、所、之、右、お、存、口、人、之、答、之、由、來、御布

吉、名、所、之、息、境、正、難、り、由、様、之、事、件、佐、在、

均、右、在、庭、而、其、村、長、之、名、念、三、于、今、昔、閑、之、成

其故歟
右所達書旨
兵衛井虎村長
常此坊名
亦怕言取
其相
道

一以五
彼地
二泊
村
依久間出入

農氏
傳十七
他
多
復
界
所
河

一 小川産之佃を以て其地若し東口所、學校ヲ立テ横
濱、高倉、洋學之出來ルキ人ヲ土長為政見テ洋
學を授ケ各人々信シ土民ヲ誘惑シ其内志ヲ
依之間御其地ニ三ノ村長ヲ立テ、種地ヲ及、皆右
邊ニ、變り世々、後日惣村長輩ト亦稱シ上者有共
交着ニ、其を校懐、高倉トテ、出トシ、事、小川ニ、殆ト、
カ、躰、高、共、リ、得、權、其、係、之、長、之、事、至、于、事、願、款
息、以、之、リ、之、事、也、

右邊、河、流、之、分、松、之、
御高札、各村、一、定、之、事、
成分、月、松、土、民、之、松、林、匠、感、物、信、教、之、方、向、
立、業、后、事、之、中、在、地、之、以、核、當、之、業、之、事、
小川、衆、之、自、其、十、禱、引、物、之、十、分、之、内、志、之、事、
之、事、之、費、之、彼、地、之、蔓延、之、且、夕、之、切、込、之、事、
之、彼、地、之、五、島、且、之、村、島、之、矣、宗、徒、口、孫、不、可、
之、大、害、之、釀、之、事、之、難、計、之、事、之、切、込、之、難、耐、事、之、事、
依、之、右、
御高札、之、所、而、並、物、又、宜、之、事、之、所、之、教、

今日之急務下也恐事是為下何不才也至
布兩孫及子程車專祈下右在才更津縣官內
搜索之事信之不放也報向者如才之馬也

頓首謹言

四月十三日

橫濱
安友劉方印

